

私はイタリアでインターリハ業務をサポートを担当させて頂いております。

コロナウイルスの感染爆発は、私がおりますイタリアでも2月の後半までは全く想像もできない遠い外国の話というような認識がありましたが、その後はご存知の通りまたたく間に状況が変化し、いつの間にかコロナウイルス感染の中心地となっていました。

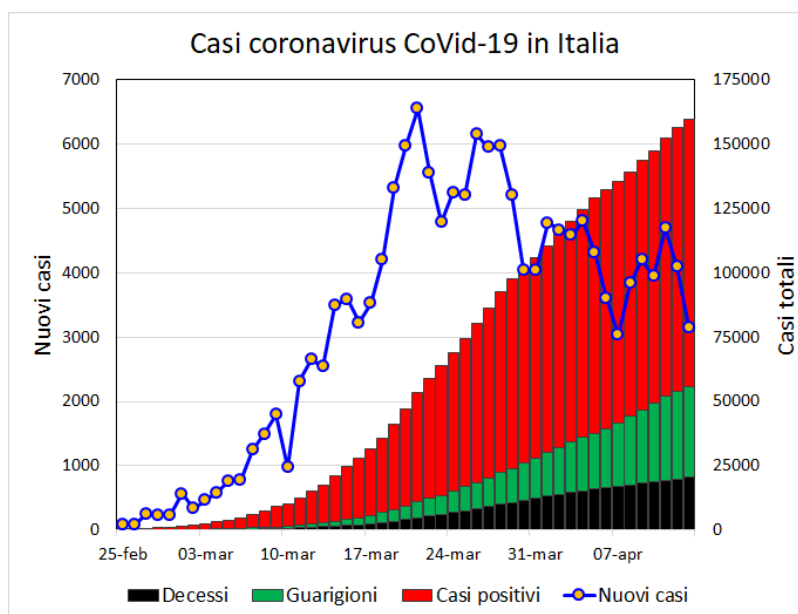
私がおりますパルマ市は、感染状況の最も厳しい状況にあるミラノ市を中心としたロンバルディア地方の隣にあたるエミリア ロマーニャ州というゾーンになります。

この地域は、ロンバルディア地方の次に感染が多くなっており、早い段階で感染爆発が起きました。

イタリアは、先月の3/8に政府から各都市の完全閉鎖が発令され、それ以降都市間移動はもちろんのこと、個人の外出、散歩やランニングも禁止されており、外に出るのは食材の買い出しのみです。

このような閉鎖状態から既に1か月以上が過ぎましたが、先日の政府からの発表では、この状態を少なくとも5/3までは継続するということになるようです。

ここで、見て頂きたいのがこちらのグラフです。



青の折れ線グラフは、日々の新しい感染者の推移です。閉鎖から約2週間後の3/22から3/25前後に感染者数のピークが来ています。これはコロナの潜伏期間の傾向からこのあたりにピークが来ることは予想されておりました。

ただ、問題は、その後そのピークから2週間以上経過しているのに、毎日の感染者数を思った以上多く減らすことができていないことです。未だに毎日3000人前後の新しい感染者が出ており、このウイルスの抑え込みがいかに難しいかを思い知らされています。

ここにきて、こちらでも分かってきたのが、人と人との接触を極力減らし、距離を保ち、飛沫感染を防ぐことは都市閉鎖によりある程度できていますが、手からの接触感染については思った以上に認識が薄いまま、これによる感染が防げていないことも新たな感染を大幅に削減できないひとつの要因と考えられます。

ここ最近になり、銀行のキャッシュサービス、スーパーや店舗での支払いカード機械、エレベーターのパネル、ボタンなど不特定多数の方が接触すると思われる箇所からの手を通しての接触感染がかなりあるのではないかと言われています。

これを防ぐには、これらの箇所を触った際、その後自分の顔を決して触らないようにすること、できれば小型のスプレーボトルに消毒液を入れ携帯し、このように公共のものに触れた後は手を消毒することが感染の可能性を減らすことにつながるかと思われます。

また、私達も実践しておりますが、無意識のうちに自分の手を感染経路である目、鼻、口に接触させることを防ぐために、マスクのほかに、サングラスか眼鏡をつけることも有効な手段ではないでしょうか。

日本でも感染が日々広がっており、政府から出された自粛期間約2週間のうちにどれだけ食い止められるかが重要になってくるかと思えます。

ただ、こちらでこの1か月半を通して感じることは、最終的には、1個人個人が、感染予防、防御方法をきっちりと理解し、それに伴った倫理的行動をとれるかどうかがこのウイルスと相對していくうえで最も重要なポイントだと思えます。

この状況でこそ、イタリアをはじめ、全世界でイメージされている 常識、倫理、他人との調和を重んずる日本人の真価を問われるときではないでしょうか。

皆で協力して、感染拡大を防ぎ、1日も早く通常の生活に戻れるよう、力を合わせこの状況を乗り越えましょう。